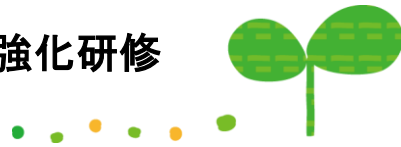


## 助産実践能力強化研修



「コロナ禍で助産学を学んだ学生の状況と新人教育・後輩指導について」

於：山口県看護研修会館

講師：山口大学 大学院 医学系研究科 准教授 亀崎 明子先生

令和3年2月13日（土）、助産実践能力強化研修として、山口大学大学院 医学系研究科 准教授 亀崎明子先生に「コロナ禍で助産学を学んだ学生の状況と新人教育・後輩指導について」講演をして頂きました。現場で新人教育に携わっている助産師を中心に、11名の参加者がありました。大学で、どのような助産師の育成に取り組んでいるか、実際のカリキュラムの具体的な説明を交えて丁寧に説明して頂きました。ハイリスク、ローリスク双方の助産ケアができること、プレコンセプションケアの必要性などが重要であり、今まで以上に質の高いケアが行える助産師が求められていることが理解できました。

また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、助産学実習の約60%が短縮されたこと、NICU 実習や継続事例の家庭訪問実習がなくなった学校がほとんどであると知りました。

そのようなコロナ禍で助産学を学んだ学生の特徴としては、①患者、家族とのコミュニケーションの経験が少ない、②看護師が実践している現場を見ていない、③チーム医療やカンファレンスへの参加経験がない、④専門職へ報告するという経験がない、⑤学内実習やオンデマンド研修など学生のペースに合わせた実習であった、⑥グループ学習が多く、個人の自律性や主体性を育めなかったなど様々な背景があることを知ることが出来ました。コロナ禍で助産学を学んだ学生の状況や基礎教育についての知識を得て学びが深まりました。この学びを看護の現場で新人教育、後輩指導に活かしていきたいと思えます。

今後も、医療現場、看護現場で活かしていけるような研修を企画していきたいと思えます。感染対策にも十分留意していますので、たくさんのご参加を宜しくお願いします。



山口県看護協会助産師職能委員会